

小南市郎兵衛密通疑惑一件 釈文

①

天保三辰年閏十一月二日

西丸御小性(姓)組

曾我伊豫守組

羽太求馬

其方儀、當二月七日、稻荷祭の夜、娘ふさ、大御番格奥詰小南市郎兵衛と臥居候を、三男鬼八郎見咎候由、家来渡辺権之進承り、市郎兵衛へ手強き及掛合、或は同人方へふさを連参り預置、又は同人不身持の趣、悴(悴)半蔵より其方妻とみへ申聞候由、とみより承り、兼々心底程見届、尼に致し候様申付候処、則剃髮致、右髪を半蔵より市郎兵衛妻方へ差遣候節、不都合の返事を以差返し候由、権之進憤、奥儒者成嶋邦之丞方へ申遣、同様の願書写差出候に付、同人并小普請組高力丹波守支配野村図書、山崎又兵衛組御中間金田故十郎取扱、内濟相整候始末、其方へは不申聞候共、薄々も及承候はゞ、厳敷差留可掛合筋は其方より可申談処、権之進強情者故、差留承引致間敷と存、其俣に致し置候段、主人の名義も難立、既如何の風聞有之、頭より慎申渡候節に至、とみより権之進へ相尋、内濟金貳拾四兩請取候積り承り、不相濟儀に付、為差戻候とは乍申、畢竟家来に被見掠候始末、未熟の至、其上家事不取締にて悴(悴)ども身持不宜をも、其分に差置候段、旁不埒の至に候、**依之御番被召放、小普請入、閉門被仰付者也**

右求馬娘

ふさ

②

其方儀、先達而不身持の儀有之、親共の不興を請罷在候上は、急度可相慎処、當二月七日、稻荷祭の夜、酒給酔居、小南市郎兵衛密通申掛候由、得心致し、事は不遂候共、猥々間敷始末に及び、弟鬼八郎に被見咎、其上権之進に被尋候は、有躰可申聞処、厳敷相尋候由密通致し候段相答候に付、同人儀、市郎兵衛へ手強掛合候次第に及び、剩権之進に被召連、市郎兵衛方へ差付相越候始末、女子の行状に有之間敷儀、畢竟其方不身持より事起、親兄弟迄御詮儀請候始末に相成候段御旗本の娘の身分に不似合儀、不埒の至に候、**依之押込**

右求馬惣領

羽太半蔵

其方儀、當二月七日、稻荷祭の夜、妹ふさ、小南市郎兵衛と臥居候を弟羽太鬼八郎見咎候由、女子ども噂致し候哉承り居候由、同十一日市郎兵衛方よりの急に呼に参、罷越候由、家来渡辺権之進参り居、市郎兵衛、ふさと密通致し候旨、事六つヶ敷申掛、迷惑致し候由に付権之進をば差歸し、猶又市郎兵衛儀、右躰の覺は無之候得とも、酒

興の上、心得違も有之候て、求馬へ相詫（詫）、権之進をも宥め呉候様頼候趣、子細無之と存候上は、権之進は家来の儀、急度申付方も可有之処、強情もの故迫も利害承請間敷と存、其俣に致し置、

其上同人儀ふさを市郎兵衛方へ連参り、預け置、迷惑致候に付、引取呉候様、野村図書申聞、則引取に参候途中にて行逢、ふさは小十人頭小沢勘兵衛取計、送歸し、其節も権之進不聞請候とて、小普請組丹羽又左衛門支配横地清八郎宅にて、其方請取、其俣預け置、翌日呼戻候上、ふさ不身持の段、母とみへ申聞候処、両親とも立腹致し

③ 尼に致し候様申付候に付、ふさを剃髮致させ、権之進に被勸候とて右髪を市郎兵衛妻ます方へ差遣候段、事を好み師匠道へ對し

不実成致方、右故同人妻方よりも不都合成返事を以差返し

候を、権之進憤り、奥儒者成嶋邦之丞方へ申掛、同様の願書写

差出候次第に至、剩同人并野村図書、金田故十郎取扱、ふさ手當

金貳拾四兩請取、内濟相整、権之進任申、右一札へ奥印致相渡、父求馬

儀、頭よりの慎申渡候節に至、不相濟儀と心付、両親俱に権之進へ申付、為差

戻候とは乍申、卑劣成仕方、殊に常々漁獵を好み、弟羽太鬼八郎

俱々不束成躰にて網を打候段、旁御旗本の悴（悴）に不似合の儀不束の至候、

依之改易

右求馬三男

羽太鬼八郎

其方儀、當二月七日夜、稻荷祭の夜、使用に参候節、燈火無之巨（炬）燵に

姉ふさ、小南市郎兵衛と臥居候を、同人とは不存、頭へ躓き候て、密通

と見留候儀も無之処、無思慮相咎候より事起、家来渡辺権之進儀

市郎兵衛方へ品々不届成掛合に及び、ふさ手當金請取、内濟相

整候始末、薄々及承候上は、市郎兵衛は師匠道の儀、不事立様取計

方も可有之処、権之進は強情者迫も利害承受申間敷と不

存躰に致し居候段、不実致方、殊に常々漁獵を好み、兄羽太

半蔵俱々不束成躰にて投網を打候段、御旗本の悴（悴）に不似合の儀

不届の至候、依之押込

④

小普請組

高井左京支配

井上鍊之助姉

くわ

其方儀、母方祖父羽太求馬方に逗留致居候処、當二月七日、稻荷祭の

夜、叔父羽太半蔵子共に小用可為致と手燭を搜居候砌、叔父羽太

鬼八郎臥り居候者の頭へ躓き、灯を持参候様聲を掛、下女行燈

を提参候節、小南市郎兵衛罷在、叔母ふさと巨（炬）燵に臥居候を、椽頬（えんがわ）

にて見留候迄に候処、渡辺権之進儀、ふさ・市郎兵衛密通に相違有之間敷

有躰に申候様敵敷申聞候とて、兩人私語居候をも承り、睨と見留

候趣相答候故、ふさ儀も無余儀相當の答致し候次第に相成、叔母へ
對し不実の致し方不埒の至に候、**依之押込**

右求馬妻

とみ

其方儀、當二月七日、稻荷祭の夜、娘ふさ、小南市郎兵衛と臥居候を
鬼八郎見留候由にて、女子ども噂致、右一条、家来渡辺権之進より市
郎兵衛方へ掛合候処、同人挨拶振不宜候とて憤り、ふさを市郎兵衛
方へ連參、預置候処、小沢勘兵衛取扱、送歸候に付、悴（倅）半蔵儀、ふさを
横地清次郎方へ預け、又は呼戻候上、ふさ不身持の儀、其方申聞
兼々心底程見届、求馬へも申聞、尼に致し候様申付、剃髪為致候様、
半蔵を右髪を市郎兵衛妻方へ差遣、不都合の返事を以差

返候故、猶以權之進憤り、成嶋邦之丞方へ申掛、同様の願書写差出候に付、
同人、并野村圖書・金田故十郎取扱、内済相整候始末等薄々及承候

⑤

上は、求馬俱に敵敷差留可申処、無其儀、既如何の風聞有之、頭より求馬
慎申渡候節に至、權之進へ相尋、内済金受取候処、承り不相濟儀と存
金子為差戻候とは乍申、不束成致し方、其上悴（倅）ども平常身持
不宜をも乍存、其戻に致し置候段、旁不埒の至に候、**依之押込**

大御番格奥詰

小南市郎兵衛

其方儀、鎗術師範致し、奥向御奉公をも相勤候身分にて、當
二月七日、門人羽太求馬方へ稻荷祭に被招參り、如何敷躰にて
雑人打交、太鼓囃子致、其上酒に給酔、求馬娘ふさに三味線を
為弾踊騒ぎ、剩ふさ儀巨（炬）燧に臥居、外に人不居合候とて、酒興
の紛、同人へ戯れ巨（炬）燧に這入、密通申掛、事は不遂候とも猥々間
敷始末に及び、羽太鬼八郎に被見咎候上は、求馬家来渡辺権
之進罷越、品々難題申掛候とも、掛合の致方も可有之処、毎度不當
成及返答候より、同人儀、ふさを駕籠に乗連參、預け置、又は同人を剃
髪為致、右髪を羽太半蔵より其方妻方へ差越候節も、不束成
挨拶為致候故、權之進猶以憤り、成嶋邦之丞方へ申掛、同様の願
書写差出候始末至候、然上は早速吟味をも可相願処、元来其
方の不慎より事起、表立候ては不相濟儀に付、穩便に相濟度段、邦
之丞・并野村圖書・金田故十郎へ取扱相頼、ふさを縁付の手當
金貳拾四兩差出、同人若懐胎の節は金三兩差出候對談にて

書付取替、内済相濟候段、勤柄身分不似合なる所行、不埒の至に候、

依之御奉公被召放、小普請入、差扣

小普請組

高力丹波守支配

野村 凶書

其方儀、伯母賀小南七郎兵衛儀、羽太求馬方稻荷祭罷越、酒興の紛、同人娘ふさへ戯れ候儀は有之候共、密通は不致候処、求馬家来渡辺権之進罷越、品々難題申掛、外間にも拘り迷惑致し候間穩便に取扱呉候様、伯母俱に相頼候に付、断も難申、種々取扱候得共渡辺権之進得心不致、其後ふさを市郎兵衛方へ連参り預置、又候羽太半蔵儀、ふさを剃髪為致、右髪を市郎兵衛妻方へ送越候節も掛合等致し、剩権之進儀、成嶋邦之丞方へ申掛、同様の願書写持参候由にて、同人存（在力）付を以金田故十郎に為取扱、ふさ縁付の手當金貳拾四両、市郎兵衛より差出、内済相整候節、右金子、権之進へ相渡候儀共、元来不正の儀に付、吟味願致候様、市郎兵衛へ心付可申処無其儀、近親のもの不束の始末、外間を厭候とは乍申、俱に取扱候段不行届不埒の至に候、**依之差扣**

大御番格奥詰

小南市郎兵衛妻

ます

其方儀、夫小南市郎兵衛儀、羽太求馬娘ふさと密通致し候由にて求馬家来渡辺権之進罷越、市郎兵衛と彼是申争候を承り権之進を申育、羽太半蔵を相頼、権之進を帰し貰、猶又酒興の上心得違も有之候共、求馬へ相怗（詫）、権之進をも肴呉候様、市郎兵衛俱に半蔵へ相頼、其後も権之進罷越、市郎兵衛と申争ひ候に付、甥野村圖書へ取扱の儀相頼置候処、又は権之進儀、ふさを連参り

預け置立帰候に付、其段凶書へ申遣候処、留守に付、當惑の砌、小十人頭小澤勘兵衛参合候間、市郎兵衛俱に相頼、勘兵衛利害を以ふさを送帰、其後半蔵方よりふさ剃髪申付候由にて、右髪を状箱へ入、送越候とて、半蔵取計方も難心得存、権之進同腹と相察、不束成返事相添、差戻候故、権之進儀弥憤り、奥儒者成嶋邦之丞方へ申掛、同様の願書写差遣候次第に至、同人儀、圖書・金田故十郎等取扱、内致し候節は掛合には不携候とて、右躰不容易儀を吟味可為致心付も無之、彼是不行届事に候、**依之叱し置**

山崎又兵衛組

御中間

金田故十郎

其方儀、奥儒者成嶋邦之丞門人に有之候処、當二月廿日、同人方へ西丸御小性（姓）組曾我伊豫守組羽太求馬家来渡辺権之進儀、願書写持参致し、去る七日、稻荷祭りの夜、求馬娘ふさを、大御番格奥

詰小南市郎兵衛強姪致し候に付、權之進より内々及掛合候得共、不當の挨拶に付、残念に存、其筋へ可願出處、市郎兵衛頭支配相分兼候に付、邦之丞は類役の儀に付、申出候趣に有之處、右躰表向に成候ては、双方為に不相成、其方引請、内分の取扱致し呉候様、邦之丞相頼、師匠にて厚世話に成、其上市郎兵衛儀は懇意の儀故、氣の毒に存候迎、吟味願致し候様可申談、心付も無之、權之進へ引合内済取扱、邦之丞市郎兵衛へ申談、ふさを縁付の手當金貳拾四兩、市郎兵衛より差出證文へ調印致し為取替、内済合整候處、猶又權之進懸合に任、ふさ懷妊の節は入用金三兩、小南市郎兵衛より

⑧ 可差出旨以書面、權之進へ及懸合候段、不行届取計不埒に付、
急度叱り

急度叱り

求馬家来

渡辺權之進

其方儀、主人ふさ不身持の儀有之、両親共不興を請候砌、詫いたし、向後ふさ身分に付、主人へ苦勞掛間敷旨取極、ふさ身分引受候處、當二月七日、稻荷祭の夜、大御番格奥詰小南市郎兵衛とふさ儀、密通の沙汰承り、同人は縁組相談中の處、右様の儀有之候ては破談可致と残念に存候得共、睨と見留候儀も無之、小普請組高井左京支配井上鍊之助姉くわを為立合、ふさへ相尋候處、密通致候に無相違旨申に付、

右の趣市郎兵衛へ及内談候はゞ、ふさ身分の難儀に不成様取計も可有之哉と、主人共へは不申聞、度々市郎兵衛へ及掛合候處、不取合、却て不法の儀申聞候に付、申争候處、小普請組高力丹波守支配野村図書取扱候へども、否不分候に付、迷惑相懸候はゞ掛合可埒明と存、ふさを市郎兵衛屋敷へ連参差置、掛合可致と存付、立歸候處、小十人頭小沢勘兵衛取扱差戻候に付、主人惣領羽太半蔵請取、小普請組丹羽五左衛門支配横地誠次郎方へ預け置、翌日呼戻候處、右の趣求馬妻とみ承、立腹致し、尼に致候様、半蔵へ申付、剃髮為致候處、密通の儀はふさ僽人の不身持にも無之、市郎兵衛不慎故、事起候儀の處、片落の致し方、殊にふさ坊主に致し候ても市郎兵衛儀可存様無之、切候髮に手紙を添同人妻へ送り候跡、半蔵を申勸、差遣候處、不都合成返書差越候

⑨ 間、猶又以外に成、表立願出候心底は無之候得ば、親類共可取扱と存候故、市郎兵衛儀、求馬奥へ忍入、ふさを強姪、又は右小澤勘兵衛手荒の取扱有之杯受段取繕願書写、奥儒者成嶋邦之丞方へ差出候處、山崎又兵衛組御中間金田故十郎取扱を以市郎兵衛方にて方にてふさ縁付の世話有之候積を以、髮生じ揃候迄の手當其外共金貳拾四兩請取書付為取替、若ふさ懷妊の節は、金三兩請取候對談にて内済相成候後、右躰の金子請取置候ては不相済者にて、とみ儀早々

差戻候様申付候間、故十郎へ金子差戻候段、私欲に拘り候儀は無之候得ども、市郎兵衛は身分柄の儀可及懸合筋は、主人へ申聞、差図可受処、一己の了簡を以万事取計、殊御役人取計筋は不容易儀を取繕、認取及掛合、主人をも蔑に致し候仕方、主人共不輕御願を請候次第に相成候段、武家方用役相勤候身分にて、右始末不届に付、**遠島**

松平和泉守殿御差図、於評定所初鹿野河内守、筒井伊賀守、堀小四郎立合申渡之

奥儒者

成嶋邦之丞

其方儀、當二月廿日、登城留守中、羽太求馬家来渡辺権之進罷越、小南市郎兵衛儀に付、願書写差出候由にて、悴(倅) 柁吉預置、帰宅の上、一覽致候処、市郎兵衛儀、去る七日、求馬宅奥へ忍入、同人娘ふさ強姪致候間、市郎兵衛へ及懸合候処、不當の挨拶に及び候に付、其後ふさ同人方へ連参預置候処、小澤勘兵衛、并同人家中ども大勢

⑩

にて可切殺旨申、刀脇差振廻し候杯不容易儀、認有之、真偽は不相分候得共、右様の表立候ては、双方為に相成間敷旨存、金田小十郎に取扱相頼、其方も市郎兵衛宅へ罷越取扱の上、ふさを縁付の手當金貳拾四両、市郎兵衛より差出内済相整候処、其後権之進義ふさ身分、主人引請に成、権之進は手を放れ候由にて、預置候金子差戻候旨、強て申聞請取置候段、故十郎申聞候間、一旦相渡候金子可取戻筋無之段申聞、同人儀も難預置候由、其方蔵宿四郎左衛門方へ右金子預け置候由、右躰不容易儀申出候はゞ、最初より吟味相願候様市郎兵衛へ可心付処、其儀無之内分にて取扱候段、不行届儀、不束の儀に候、**依之差扣被仰付**

小十人頭

小澤勘兵衛

其方儀、當二月十六日、小南市郎兵衛方へ参候節、羽太求馬家来渡辺権之進儀、求馬娘ふさ連参り預置立帰候に付、家内一同及當惑、ふさへ申なだめ返し呉候様被相頼、無余儀同人へ利解申聞、送返し候段は師弟の中、殊に参り合、難黙止筋に候共、権之進儀、ふさ・市郎兵衛密通の趣を以、品々難題申掛け候儀、委細承の候はゞ、假令市郎兵衛外聞に拘り候共、不容易事柄に付、吟味願致候様可心付処無其儀段、**不行届不束の事に候**

右増山河内守殿於御宅御同人被仰渡、御目付大久保讚岐守相越立合申渡之